

武田薬品湘南新研究所を問う！

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/090-6317-5547>(小林)

日本列島は 1 年間に
こんなに動いている

鈴木藤沢新市長に期待

巨大地震に備えた武田薬品の
バイオ公害対策と「安全協議会」
の設置を求めます

武田問題対策連絡会

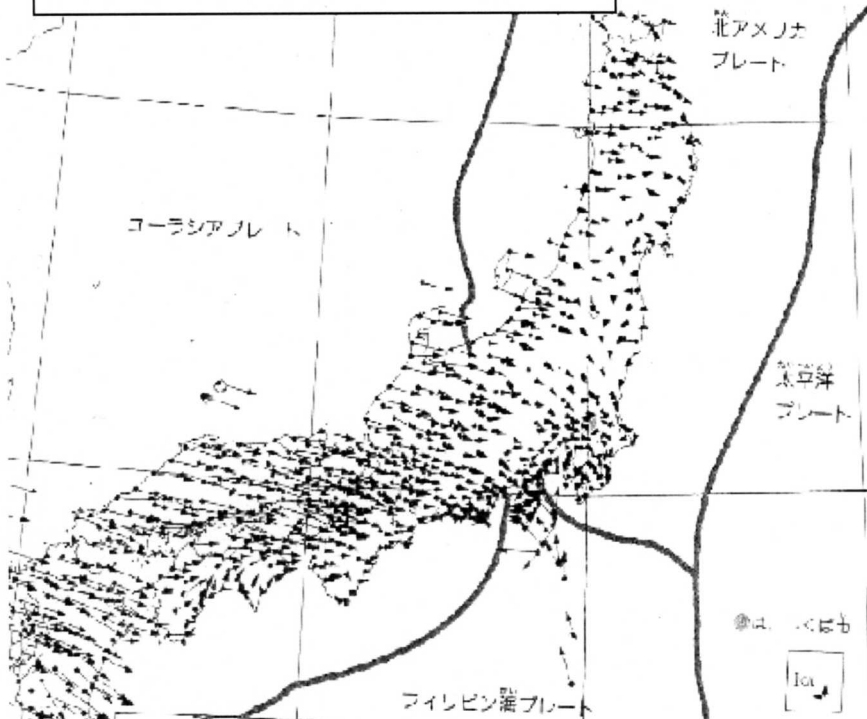
代表 小林麻須男

左の日本列島の地図は、日本各地が矢印の方向へ移動している事を示したものです。地図に見るように、太平洋側には、太平洋プレート、フィリピンプレートが在り、相模湾・駿河湾はこれらの結節点であるため、いつ巨大地震が起きてもおかしくない地域になっています。

今年2月の市長選で、新しく藤沢市長になった鈴木恒夫さんは、災害に強い藤沢のまちづくりを実現するため、災害を地震・津波・原子力・その他生活基盤を破壊する災害に分け、対処する政策を進めると公約しています。

武田薬品のバイオ公害等は「その他の生活基盤を破壊する災害」に分類されておりますが、この地で巨大地震がおきた場合は、武田研究所の建物や内部配管などが破壊され、福島第一原発の放射能流出事故に劣らないバイオ公害の発生が懸念されます。

新市長には、武田薬品のバイオ公害に対する適切な対策と合わせて、事故を未然に防ぐため、日常的に武田薬品の安全操業を監視する専門家と、近隣住民だけでなく関係市民も入った「安全協議会」を早急に設置するよう強く要望するものです。



上記は週刊現代 2011年4月9日号福島原発特集ページより転載

今号は、遺伝子組み換え廃液の漏出事故を起こした武田薬品が出した正式な説明・報告書をもとに、バイオ専門家の新井秀雄博士にズバリ原因と問題点を究明して頂きました。

→ P2~P3

